

平成 28 年 2 月 4 日

今後の「我が国における地球観測の実施計画」の取りまとめについて(案)

1. 背景

- 我が国では、平成 16 年度に策定された「地球観測の推進戦略」(以下「推進戦略」という。)に基づいて、地球観測事業を推進してきた。
- 推進戦略が策定後 10 年を迎えたことを受け、総合科学技術・イノベーション会議(CSTI)環境ワーキンググループは、推進戦略策定以降の地球観測等事業の進捗状況のレビューを実施した(「地球観測の推進戦略」策定以降の我が国の取組状況に基づく地球観測等事業の進捗状況のレビュー」(平成 27 年 6 月))。
- これらを受け、本部会は、地球観測を取り巻く国内外の動向を踏まえた、今後 10 年程度を目途とした我が国の地球観測の実施方針「今後 10 年の我が国の地球観測の実施方針」(平成 27 年 8 月 25 日)(以下「実施方針」という。)を取りまとめた。
- 今後、推進戦略の下で毎年策定してきた「我が国における地球観測の実施計画」(以下「実施計画」という。)については、実施方針の下、関係府省・機関が引き続き毎年策定し、本部会は、必要に応じ、実施方針とそれに基づく事業の進捗状況について、CSTI に報告を行うことになっている。

2. 「我が国における地球観測の実施計画」の取りまとめについて

- これまで、関係府省・機関は、年度ごとに実施計画を策定し、これを本部会が取りまとめ、CSTI に報告してきた(別紙 1 参照)。
- 今般、新たに取りまとめた実施方針では、課題解決型の地球観測を志向していくこととし、今後の地球観測が貢献すべき課題を抽出し、必要な観測内容を示した。
- そこで、今後の実施計画の策定にあたっては、実施方針に基づく課題解決型の地球観測を我が国全体で効率的かつ効果的に推進していくことを目指し、今後我が国が新たに必要とする地球観測の内容を俯瞰できる形で実施計画をまとめることとする。このため、関係府省・機関の計画を、別紙 2(案)のようにまとめることで、課題解決型の地球観測の実施内容の現状を把握することとする。

(別紙 2)

「今後 10 年の我が国の地球観測の実施方針」に基づく、平成 28 年度の我が国における地球観測の実施計画の取りまとめイメージ (案) ※下記は J A X A を事例に記載

実施方針	整理番号	実施方針に貢献する項目(取組の概要)	項目の種別			観測対象	観測手段	観測域・観測地点	観測頻度	府省庁名 組織名	事業名 (予算費目)	28年度 予算額	新規・ 拡充	計画 期間	備考欄
			観測	機器 開発	データ利 用研究										
IV章. 課題解決型の地球観測															
1. 気候変動に伴う悪影響の探知・原因の特定への貢献															
(1) 人為的な地球環境の変動の把握への貢献															
① 温室効果ガス及び短寿命気候汚染物質、エアロゾル等の観測と地球温暖化プロセスの理解を深める。	1-1-1-1	GOSAT								文・JAXA	〇〇〇の推進	〇億円		〇年度～ 〇年度	
	1-1-1-2	GOSAT2の開発								文・JAXA	〇〇〇の推進	〇億円		〇年度～ 〇年度	
	1-1-1-3	EarthCARE/DPRの開発								文・JAXA	△△△の推進	〇億円		〇年度～ 〇年度	
	1-1-1-4	EORC 分野横断利用研究 (大気環境物質監視の実施)								文・JAXA	□□□の推進	〇億円		〇年度～ 〇年度	
② 気候変動に伴う雪氷圏の上昇による海面上昇の監視	1-1-2-1	EORC 海洋環境監視の実施								文・JAXA	□□□の推進	〇億円		〇年度～ 〇年度	
③ 地球環境変動と人為的な関与を観測に基づき実証的・定量的に解明	1-1-3-1	EORC 分野横断利用研究								文・JAXA	□□□の推進	〇億円		〇年度～ 〇年度	
	1-1-3-2														
(2) 気候変動対策の効果把握への貢献															
① 地球規模の環境変動の監視となる地球物質量の観測、観測データが不足している両極域を含むグローバルかつ高解像度の観測体制の構築	1-2-1-1	GCOM-W の継続監視								文・JAXA	×××の推進	〇億円		〇年度～ 〇年度	
	1-2-1-2	GCOM-C の打ち上げ								文・JAXA	×××の推進	〇億円		〇年度～ 〇年度	2017年度より 運用開始
	1-2-1-3	(GCOM-W 後継の検討)								文・JAXA					
② 温室効果ガス、短寿命汚染物質、エアロゾルの北極域を含む地球規模の三次元観測及び地表面での吸放出量の観測	1-2-2-1	ALOS-2 による災害監視								文・JAXA	●●●の推進	〇億円		〇年度～ 〇年度	
③ 衛星観測等による森林火災の監視、全球植生のバイオマスや一次生産力の監視	1-2-3-1	GCOM-C の打ち上げ								文・JAXA	×××の推進	〇億円		〇年度～ 〇年度	2017年度より 運用開始
(3) 気候変動の予測精度の向上への貢献															
① 開発途上国を中心とした国々の過去の観測記録のデジタル化、古気候プロキシデータの体系的な収集、永続性・堅ろう性のあるアーカイブシステムの構築等を強化		なし													
② 気候モデルのシミュレーション精度の向上とアンサンブル数の増大	1-3-2-1	EORC 分野横断利用研究 (気候システム・放射過程の実施)								文・JAXA	□□□の推進	〇億円		〇年度～ 〇年度	

⇒以降、第VI章(統合された地球観測の推進体制・組織)まで、同様に項目ごとに係る施策等を記載する。